

黄金の3日間

2025. 4. 10

今週は、多くの幼稚園、小学校、中学校、高等学校で、「黄金の3日間」となっただろうか。幼稚園は、本日で大事な3日間が終わる。

育児休業から4月1日に復帰した若い先生が、あいさつの中で「黄金の3日間」という言葉を使った。何だかうれしかった。応援したくなる。

子どもたちにとって、この3日間は、多少の不安はありながらも、期待のほうが大きいだろう。一番の関心事は、どんな先生だろうということだろうか。学級のメンバーは、どうだろうか。雰囲気はどうだろうか。友達はできそうだろうか。ドキドキ、ワクワクできる期間である。

大切な3日の間に、何ができるか。何を出せるか。その先生の力量がすべて出る。したがって、3日間が黄金に輝くかどうかは先生次第である。自分のことを振り返ってみる。若い頃は、経験が少なかったせいもあるが、教員としての引き出しが足りなかった。気合十分で、張り切ってはいるが、子どもたちにとって、具体的な魅力的なものを出せてはいなかったように思う。打上花火的なアドバルーンをあげようという発想になっていたのではなかろうか。引き出しがないと、そうなりがちである。

3日間を黄金にするには、教員としての人間性がポイントとなる。子どもに安心感を与える包容力、子どもを楽しくさせる明るい表情や話術、子どもをワクワクさせる教材提示など、重要な要素がいくつかある。それらを支えるのが、人間性であり人柄である。

今年度は、「黄金の3日間」と言ってくれた若い先生を育てながら園の経営をしていきたい。職場には、若手がいたほうがよい。若手は必要である。若い人に何かを教えようとすれば、自分もちゃんとしなければならない。若い人と話すことで、自分ができていないこと、自分に足りないことにも気づくことができる。若い人を育てることは、実は自分を成長させることにつながる。

若い人に限ったことではないが、子どもたちと一緒に悩みながら、苦しみながら教員として、一人の人間として成長していつてほしい。ときには、辛いこともあるだろう。だが、それは、成長のためのステップである。子どもに助けられることも多い。子どもは、実に多くのことを教えてくれる存在である。

黄金とは、価値のある貴重なものである。「黄金の3日間」が、この先の1年を決めてしまう。何事も最初が肝心である。若い先生を育てられる園でありたい。若い先生が育つようであれば、きっと笑顔かがやく子どもを育てることができるだろう。子どもにとっても、保護者にとっても、先生方にとっても魅力的な園にしていきたい。